



教育関係者・事業者部門 消費・安全局長賞 《教育等関係者》

なかしべつ

北海道中標津農業高等学校

(北海道) 活動期間 15年

食農教育の深化と進化 ～“食への感謝”を計根別から中標津町全域へ～

高校生がつなぎ役 町全体での食育活動

本校の位置する中標津町計根別地区は、小さな町ながらも幼・小・中・高と学校種がそろっており、地区内の学校と連携を図り、幼稚園児から中学生まで全学年を対象とした食農教育を実践しています。

また、平成30年度より町全体へ活動を広げるべく、町内の小中学校の希望者に対する食農教育「なかのうスタイル」も開始しました。



園児とのジャガイモ収穫体験

発達段階に応じた 体験プログラム

対象児童の学年に合わせ、

幼稚園⇒感じる心を育てる

小学生⇒学ぶ意欲を育てる

中学生⇒自ら考え人に伝える能力を育てる
を学習目標として、農家や地域企業、町役場等と打合せを重ね、発達段階に応じた体験プログラムを組んで、12年間継続した食農教育を行っています。



小学生：
カボチャの支柱立て



中学生：
ビーフジャーキー加工体験

「計根別食育学校」& 「なかのうスタイル」

幼稚園児に対する活動として始まった「計根別食育学校」は、その後、小中学校全学年に広がり、平成30年に、それまで計根別地区限定であった活動が中標津町全域を対象とする「なかのうスタイル」を開講しました。

また、計根別食育学校においては、平成31年から地域企業の協力を得て、公共園場の活用が可能となり、より地域に開かれた食農教育へと活動の幅が広がっています。

長年取り組んでいる本活動は、地域の食育推進に大きく貢献しています。

アイディア創出体験授業



高校生による
地域特産物の授業



私たちは、町唯一の農業高校で学ぶ生徒として、食農育活動を通して少しでも地域の発展に役立てよう頑張ってきました。

今回の受賞は、私たちの活動が認められたと同時に、連携している皆さんに恩返しできたようでとても嬉しいです。

マネージメント研究班代表
須藤 和美（すどう なごみ）



教育関係者・事業者部門
《農林漁業者等》

農林水産大臣賞

こだいら J A 東京むさし小平地区

(東京都) 活動期間 18年

学校給食への地場産農産物供給を起点とした「食べて学んで体験する」食育活動

ほぼ毎日 地場産農産物を供給

小平市は地場産農産物を使った「地場産学校給食」の取組を積極的に進めており、市内全公立校への配送体制を支えているのが「J A 東京むさし小平地区」（令和元年度の地場産導入率は31.4%）です。

給食の出荷調整だけではなく生産者による出張授業や各校の学童農園による体験学習など、多角的に食育活動に取り組んでいます。



おいしい給食 いただきます！

都市にあって 貴重な農業体験を提供

J Aが生産者とのつなぎ役となり、市内全ての公立小学校において農業体験を提供する学童農園事業や花壇整備事業を実施しています。

この活動により、児童にとって生産者が身近な存在となり、農業に対する理解が深まるとともに、給食の食べ残しの減少にもつながっています。



学童農園成果物展示

事業で整備された花壇への植え込み

J A・生産者・栄養士・行政 が一体となって

学校給食の地場産導入率の向上に当たり配送面と費用面がネックとなっていました。配送面の整備に対する補助金制度と、各校の給食運営費に地場産農産物の使用実績に応じた補助金制度が整備されたことにより、導入率を大きく伸ばすことができました。



関係者による
目合わせ会

後継者団体による
出張授業



この活動は、栄養士の皆様を初めとする学校及び市の関係者、そして生産者等、多くの協力者によって成り立っています。

全ての皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後とも子供の未来のために更なるご協力をお願いいたします。

J A 東京むさし小平支店 指導経済課
課長 本多 真道



教育関係者・事業者部門
《農林漁業者等》

消費・安全局長賞

ささえたまご農園

(福井県) 活動期間 20年

地域に根ざした自然養鶏から学ぶ命の食育活動

ふれあいから生まれる 感謝の気持ち

平飼い養鶏を行い、学校の児童や子供会の親子に鶏とのふれあいや卵料理体験を実施し、生き物の命をいただくことの尊さを伝えています。

また、自身の料理学校では一般の方に家庭料理の基本を伝承し、更には「家庭料理教員資格」（全国料理学校協会）の認定校として、食育の知識を持った教員の育成にも力を入れています。



鶏とのふれあい体験

五感を使って学ぶ 命の尊さ・食べ物大切さ

子供たちの食育への理解が深まるよう、次の順序で体験プログラムを構成しています。

- ①鶏とのふれあいと卵拾い体験で、産みだてのまだ暖かい卵に触れ、鶏から生きている卵を分けてもらうことを体感してもらう。
- ②拾った卵でプリンなどを作る。
- ③試食中に、卵の黄身の真ん中にある白い点が命の源の胚盤で、20日間温めるとヒヨコになることを説明する。

体験参加者からは、「卵を割り、ヒヨコの胚盤を見る事で命の大切さを感じるとともに、その命を頂いている感謝の気持ちを実感できた」という感想もいただいています。



親子食育教室の様子

卵拾い体験



食材の基本を学び 食を選ぶチカラに導く

大人向けの「料理教室」では、レシピや調理の仕方などの料理の基本だけではなく、食材の栄養素などの情報や、農業が資源の循環に果たす役割なども伝えることにより、「食が心と体の栄養である」という認識の醸成につなげています。



大人の料理教室の様子



食べ物が当たり前に入ってくる飽食の時代に、鶏から命を頂いて私たちの命としていくことに感謝する心を伝えられるよう、食育の活動に取り組んできました。

今回の受賞により、地域とのつながりを一層強くして、今後の活動の励みとします。

ささえたまご農園 佐々江 良一



教育関係者・事業者部門
《食品製造・販売者等》

農林水産大臣賞

株式会社 Mizkan Holdings

(東京都) 活動期間 2年

「ZENB initiative」「ZENB」を通した、食にまつわる環境意識や健康意識を高める活動 ～植物を可能な限りまるごといただく～

素材そのもののおいしさを 知る・味わう

「ZENB initiative」は、おいしさ・健康・サステナビリティの視点で食の未来を共感する方々と共に考えていく活動です。

- ①高校生と10年後の食の未来を考えるワークショップ
- ②野菜の可能性を考える野菜とデザイン展
- ③シェフ、大学教授など有識者と食の未来を考えるインタビュー
- ④(株)あすけんと共同による食生活改善プログラム
- ⑤京都市と食品ロス削減に向けた協定



近未来ハイスクールにて

～未来を見据えて～ ワークショップ・デザイン展

高校生と10年後の食の未来を考えるワークショップは、植物をできるだけ大切に食べることによる環境負荷の低減の視点から、(株)オープンラボの近未来ハイスクールと連携し食と環境への意識向上に対する動機づけを行っています。

また、普段食わずに捨てている部分には栄養があることへの理解促進と健康増進を目的に、野菜とデザイン展を開催し、小さな子供から大人まで、わかりやすく体験できるビジュアルやオブジェという形で、気づき・学びの場を提供しています。



野菜とデザイン展

健康的な食生活に向けて 新・ヘルシープログラム

植物をまるごと食べる食品「ZENB」と、栄養士による食指導を組み合わせた健康プログラムを、(株)あすけんと共同で開発。

普段の食生活を見直し健康的な食生活を実践するためのアプリを提供することにより、健康増進に寄与しています。



この度は栄えある賞をいただき感謝しております。今後も、人と社会と地球の健康につながる食生活の実現をめざし、共感していただける方々と共に、取組を続けてまいります。

株式会社 Mizkan Holdings
取締役 濱名 誠久



教育関係者・事業者部門
《食品製造・販売者等》

消費・安全局長賞

株式会社マルイ

(岡山県) 活動期間 13年

地域のお客様の食卓を預かるスーパーマーケットとして
地域の多様な食生活に根差した食育活動を通じた「地域の豊かで楽しい食卓」の実現

地域に貢献 正しい食の提案をめざして

平成18年に食育推進室を立ち上げ、日々の生活に寄り添いながら、地域のお客様ひとりひとりに合った「食生活」に向けた情報発信や商品、サービスの創出、体験型企画の運営を行っています。

毎月19日を「マルイ食育の日」と定めており、全店舗で食育推進に取り組んでいるほか、メーカー様・行政・地元企業との連携フードイベントの開催や、小学生を対象とした絵画コンクール、農業体験、産学連携事業も行っています。



毎月工夫した「食育の日」レイアウト

食について学び、 体験する機会を提供

各店舗で、旬の食材を使用したレシピ等を毎月提案し、毎日の献立作りのサポートを行っています。料理教室や小学生を対象とした米やブロッコリーの収穫体験を実施しており、地域の皆様に「食」に触れ、知識を深める機会の提供を継続して行っています。

昨今では、オンラインでの珈琲セミナー・体験企画・料理教室も行っています。



ブロッコリー
収穫&調理体験

地元大学・高校と 連携した事業

地元大学と共同で、弁当開発を行っています。学生には、メニュー構成から商品名、販売ポップの作成等、商品開発の全工程に関わってもらい、大変さや楽しさを学んでもらいます。

また、地元高校とも連携し、地域食材を使用したメニュー提案も行っています。

これらの体験は、将来を担う若者の自信や成長につながるとともに、地域の健康づくりにも貢献しています。

食事バランス弁当
販売開始



マルイでは多様な活動を継続的に実施しています。

教育機関や行政、生産者と連携し、食育活動や世代を超えた交流を実施し、地域の若者に、自立心、職業観、達成感、地域への愛着心や誇りが生まれるよう目指しています。

株式会社 マルイ
食育推進室 植松 久志



教育関係者・事業者部門
《地方公共団体》

農林水産大臣賞

東松島市食育推進協議会

(宮城県) 活動期間 13年

スマホでも・紙面でも・お店でも
いつでもどこでも健康な食事に触れることができるまちづくり

～市民みんなに届ける～ 食情報の発信

新しい生活様式やそれぞれのライフスタイルに対応するため、紙媒体やオンラインを通じての情報発信を行いながら食育活動を展開するとともに、自然に健康になれる食環境整備を生産者や事業者と具現化するなど、持続可能な食育を推進しています。

さらに、SDGs 未来都市に選定されていることから、SDGs と連動した食育活動を実践しています。

市内飲食店と新たな協働として健康な食事・食環境認証制度「スマートミール」を活用し、外食・中食メニューの販売も行っています。



スマートミール弁当認証報告会

さまざまな機関との連携 によるデジタル化の推進

情報発信のデジタル化を進めるに当たり、動画編集作業は地域おこし協力隊から、企画は地域の食育関連団体や薬剤師会などから、メルマガの配信は地元アンテナショップから、レシピ配信は市内の病院や福祉施設からの協力をいただくなど、様々な関係機関と連携し体制を整えて、デジタル化を推進しています。



市と薬剤師会の動画撮影風景

大好評！ 「イートくんチャンネル」

若い世代へのアプローチを目的に、市公式キャラクター「イートくん」を活用した市公式YouTubeチャンネルである「イートくんチャンネル」を開設。

イートくんが料理や箸使いなどに挑戦する様子は子供たちの関心を引き、学びにつながっています。

いつでもどこでも見ることができるため、親世代はもちろん、食育に無関心な層へのアプローチにもつながっています。



「イートくんとできるかな」配信

動画を見ながらクッキーづくり



東日本大震災からの復興10年という節目での受賞は感慨深く、関係する皆様へ感謝申し上げます。

今後も、郷土の恵みを活かしながら、多様な連携により人と人をつなぎ、地域ぐるみで食育を推進してまいります。

東松島市食育推進協議会
会長 石森 さと子